

開支館の取組について

～地域の子どもは、地域で見守ろう～

みやま市 高田公民館開支館 【公立公民館】 主事 金子 好美

1. 地域の概要

みやま市は、平成19年1月に旧三池郡高田町と山門郡瀬高町・山川町が合併して誕生した、人口約4万人の市である。福岡県の南部に位置し、一部が熊本県と接した地域である。東部には御牧山、清水山などの山々が連なり、西部には有明海の江戸時代から幾度かの干拓によって開かれた広大な低地が広がり、全体として平坦な田園地帯となっている。

市の東北から南西へ向けて一級河川の矢部川が流れており、この矢部川を中心に、支流である飯江川や大根川などの河川が地域内を流れている。河川がもたらす肥沃な土壌と豊富な水に恵まれたこの地域は、自然豊かな農業のまちとして発展してきた。

そのみやま市の私たち開校区は、人口が2,114人、そのうち65歳以上の人口が806名、高齢化率が38.1%（市：35.7%）という地域で、小学校児童が98名と少子化が進んでいる。

2. 事業名

支館（校区公民館）活動で学校・地域の連携を

3. 事業の目的

開支館の組織は、校区の連携と協力により教育、文化等に関する各種事業を行い校区民の心身の健康増進に努め、生活文化及び社会福祉の向上に寄与するという支館の設立趣旨により、各種事業を行う。事業については、『地域の子どもは、地域で見守ろう』の合い言葉で、見守り隊を組織し、児童の登下校時の事故等や犯罪から未然に防止できるよう見守り活動を中心に、様々な事業を学校と連携して行っている。

4. 支館組織について

みやま市は校区公民館を支館と称し、その下部組織に分館があり小学校の統合はあったが、支館は継続し、旧校区毎に公民館事業を行っている。支館は、地域内から推薦された方を教育委員会が委嘱した支館長・主事を中心に運営している。内部の役員体制や選任方法は様々であるが、開支館にはPTAや育成会等と協力しながら組織を形成している。事業は、支館が中心になって行うものと、関係団体を主体とするものなど様々であるが、公民館組織を中心に各団体が繋がって実施している。

5. 事業の取り組み内容について

支館と各団体の取り組みについては、春に支館と小学校の合同運動会を開催している。10年前には春に公民館の運動会、秋に小学校の運動会を実施していたが、小学生が減少してきた事から合同運動会になった。競技種目は、支館12・学校15種目の競技で実施している。また、一緒に参加する競技も構成している。開校区内には下部組織として6つの分館があり、分館ごとにテントを張り、応援している。テントの中は多くの校区民であふれ、応援を通して交流がなされている。

次に夏祭り大会をPTAと共催している。夏祭りではカラオケ大会と盆踊りを開催し、PTAは焼き鳥・水餃子、支館はかき氷・綿菓子・ヨーヨーなどの出店を行っている。

10月には支館が行う敬老会に、小学1・3・6年生が、地域の文化等の調べものや、楽器の演奏、合唱などを発表し、お祝いには、開地区（南新開・北新開）に根付いている喜多流のお謡で参加している。

その他にも、こんかんも祭り、歩け歩け大会はPTAや青少年育成会と協力し実施しているが、なかでも学校との連携協働事業として一番大きいのが児童の登下校見守り活動である。

児童の登下校では、子どもと通学時の事故や犯罪から守るため、見守り隊を結成している。見守り隊は児童の祖父母、それと地域の方で構成しており、校区で55名の方が協力していただいている。登校は地域（各班）の児童が全員で登校しており、それには見守り隊の方が交通事故等から守るため、一緒に学校まで歩いていただいている。下校時は低学年等の5時限下校時に学校に来て、一緒に歩いて下校していただいている。遠いところでは通学距離が3.5キロメートルあり、通学に45分かかる児童もいる。



【合同運動会】



【夏祭り】



【見守り隊】

6. 他団体との連携・協力

連携団体 支館・校区青少年育成会・PTA・学校

協力機関 みやま市安心安全協議会 柳川警察署 校区社会福祉協議会

7. 事業予算

事業予算は、市から戸数等を考慮した配分で毎年約60万円程度の事業交付金と、住民から集める館費で運営している。また、必要に応じて地区育成会に柳川・みやま見守り隊より交付された予算を確保して事業を行っている。3カ年度にかけて、見守

りジャンパー等も購入した。

8. 事業の成果

開支館は、何かあった時に地域と学校が上手く連携できる体制がある。困った場合には、それぞれが頼れる関係でもある。この状況がいつから始まったのかと聞かれてもよくわからない。しかし、これは何か特別な事をやったからではなく、これまでの様々な事業を通して交流を続け、継続できる工夫を、支館を中心に関わる人々で考え、実施してきたからだろう。

また、人が集うためには、参加者が楽しむ工夫が必要であると考え取り組んでいる。その中心には、やはり子どもの存在が大きい。見守り事業が最たるものである。子どもの安全を見守るという目的に、地域住民が集まる。集まった人々の連携が校区内で醸成される。参加者は児童と関わることで喜びや楽しみを感じ、積極的に見守りに参加していただいている。児童も、朝の登校時に見守り隊の方たちに見守られることにより大きな声で挨拶する習慣ができ、地域の子もたちが地域住民により育成されている。学校外を地域の皆で守り、学校内では先生方が子どもを教育する。子どもを通して地域が互いに協働の環境がより強くなり、継続されているのである。

みやま市は合併により校区公民館の施設に旧町単位で差がある。校区毎に公民館という施設がある支館。施設がないため、小学校の余剰教室一室を事務所として改修し、その部屋を会議や少人数の集いの場として活用している支館。開支館は后者である。ただ、地域にはみんなが集える場が必要であり、そこに常時人がいれば、地域の人も集まる。このような環境と地域住民の理解と努力の継続から今の学校と地域が子どもを育成する事を通して連携する事ができたのである。

9. 今後の課題

地域全体の高齢化や少子化が進んでいることはすべての事業に大きく関わる課題である。なかでも、見守り隊に協力していただいている方たちの高齢化と少子化により低学年でも一人や二人で登下校する通学班が増えることに対処できるよう子どもの見守りを続けていきたいと願っている。

問合せ先

みやま市教育委員会社会教育課

〒835-0192 みやま市山川町立山 1278 番地

TEL:0944-32-9180 FAX:0944-32-9192